

令和 7年 4月 1日

令和6年度寄附講座活動実績報告書

寄附講座名：不整脈先進医療学講座

所 属 長： 的場聖明

1 寄附講座の目的

近年、デジタルヘルスは、モバイルネットワークのユビキタスな接続性とスマートフォンやタブレットの急増に基づくヘルスケアの構築を補完する方法として登場しました。これらデジタルイノベーションにより、患者は自分の健康を積極的に自己管理できるようになり、ケアの質と安全性が向上し、ヘルスケア関連のコストが削減されると考えられています。

我々は、ヘルスケアにおけるテクノロジー、アプリケーション、サービスの付加価値を調査・研究し、革新的なサービスの創出やスタートアップ企業との協業など、デジタルヘルス業界の経済活動を推進していきたいと思っております。

2 報告年度に係る取組状況

医師主導研究（高血圧患者における心房細動の発症と、その予防にむけた危険因子管理方法の構築）の主論文を論文化し、学会にて発表を行った。（下記に記載）

また同研究成果から特許出願を2つ行った。

その他、健診データベース研究1本、前向き観察研究2本の論文化を行った。

その他、多数の研究を実施しているところである。

また、2024年4月に京都ヘルスサイエンス総合研究センターより共同研究に採択されている。

その他、下記に記載の通り、多くの学会や研究会にて発表を行っている。

### 3 報告年度における著書、論文、学会発表、講演、研究助成等の実績

・ Impact of longitudinal changes in serum uric acid levels and weight gain on new-onset atrial fibrillation-The Nishimura Health Survey: a retrospective cohort study. BMJ Open 2024 Nov 27;14(11):e091175.

・ Relationship Between Screening-Detected Atrial Fibrillation and Blood Pressure Levels in Elderly Hypertensive Patients: The OMRON Heart Study. Thromb Haemost . 2024 Dec 13. doi: 10.1055/a-2484-0641.

・ Using Machine Learning to Predict the Duration of Atrial Fibrillation: Model Development and Validation. JMIR Med Inform 2024 Nov 22;12:e63795.

・ Development of AF'fective: an Explainable AI Application to Support Remote Monitoring of Atrial Fibrillation Patients After Catheter Ablation. JMIR Human Factors. DOI: 10.2196/65923

#### 講演

心電学関連春季大会、「京都府立医科大学の取り組み」2024年4月

Heart Rhythm、AF Screening in Patients with Hypertension: A Nationwide Decentralized Clinical Trial 2024年5月

日本不整脈心電学会総会、Machine Learning Models to predict duration of AF - Can they be useful in clinical practice? - 2024年7月

APHRS、Depression and quality of life with AF - how does it improve with comorbidity management?、2024年9月

JHRS近畿支部地方会、AI、スマートデバイスを活用した心房細動の新たな早期診断 2024年11月

血圧管理研究会、血圧と、スクリーニングによって検出された心房細動との関係性、 2024年12月

※欄内におさまらない場合は枠を広げて記入のこと。

※大学ホームページ等において公表することとなるので、秘密情報については記載しないこと。